



西栗倉中学校だより
令和7年11月19日(水) 発行



15の春の自立を地域とともに目指す活力のある学校

(学校教育目標)

未来を拓き たくましく生きる力の育成 ～ 自律 協働 挑戦 ～

(校長雑感)

西栗倉村には「西栗倉っ子教育ネットワーク（通称村ネット）」という組織があり、教育委員会を中心に、保育園・幼稚園・小学校・中学校の先生方が一体となって、西栗倉の子どもたちを育てようとしています。10月には、小学校や幼稚園で授業（保育）の公開および研修会を行いました。また25日には、中学校で2年生の保健体育の授業を公開し、合同で研修を行う予定です。

子どもたちが園や学校を移る（進学する）際に、スムーズに生活できるようにするため、「小中連携」「幼小連携」「保幼連携」といった言葉がよく使われます。しかし、15年間を一貫して連携し、子どもたちの育ちを地域全体で支える会がある地域は珍しく、西栗倉の誇れる特徴の一つだと感じています。

先日の幼稚園での保育公開と研修会では、保育の様子を観察しながら、子どもたちが遊びの中でどのように学び、育っているかを見ることができました。中学校の教員にとって、幼稚園での学びは少し遠い存在であり、保育の現場を知る機会は多くありません。そんな中で気づいたのは、先生方が意図的に環境を整え、子どもたちはその環境に影響を受けながら、遊びを通してさまざまな経験を積み、学んでいるということでした。

たとえば、雲梯（うんてい）に数字を順番にぶら下げて「何番まで行けるようになった」と会話を促し、数量への関心を高めて数の概念を自然に学んでいたりと、鉄棒の後ろにさまざまな技の絵を掲示して「〇〇ができるようになった」と自信や意欲を育てたりしていました。また鉄棒を順番に使う際にかける声のかけ合いを通して、社会性も培われていました。まさに、教育の原点に触れるような瞬間でした。

大人が、子どもたちが興味をもつ環境をつくれば、子どもは自ら動き出します。そのとき、教師の指示がなくても、子どもは自分で学んでいく——まさに能動的な学びの姿です。発達段階の違いはありますが、中学校でも子どもたちの能動的な学びを引き出す工夫を、もっと探っていけるのではないかと感じました。

今年度より右ページの「学校の様子」はHPで代替しています。10月は、21件の記事がHPに上がっています。HPも是非ご覧ください。（職員室、校長室前の掲示板にも掲示しています。）

西栗倉中学校



(学校の様子)

<https://www.vill.nishiawakura.okayama.jp/wp/nishiawakurachugakko/>